

令和6年度 板橋区立若木小学校 学校経営方針（暫定版）

I 国・東京都・板橋区の基本方針（別紙参照）

II 学校の方針

1 学校経営の基本的な考え方

めまぐるしく変化し、将来の予測が困難な社会において、国がめざす「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」に資するために、学校教育を通じて「持続可能な社会の創り手の育成」の充実を図り、広く社会貢献していく。

子どもたちのウェルビーイングを高めるためには、教師の授業力・専門性向上が基盤となるが、教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要であり、教職員のウェルビーイングの向上も図っていくことをめざす。また、子どもたち一人一人のウェルビーイング向上により保護者や家庭、地域、社会にウェルビーイング向上の循環の輪を広げていく。

権利の主体である子どもたち一人一人が自己及び互いを尊重し、子どもをまんやかに学校・保護者・地域とが連携・協働しながら共に成長していける学校をめざす。

2 学校教育目標・めざす児童像

※教員はもちろん、子どもたちも日々意識して取り組める目標か、検証していく。

「ともに生きる」

◎考えて行動する子【主体性】（◎本年度の重点目標）

未知の問題に対して、自ら考え、判断、行動できる問題解決力の育成

○思いやりのあるやさしい子【人間関係】

相手の立場や気持ちを考え、よりよい人間関係を築く態度の育成

○人のためにはたらく子【社会参画】

相手の立場を尊重し、友達と協働する態度の育成

○ねばり強くあきらめない子【自己実現】

見付けた課題の解決に向けて自ら挑戦を続ける向上心の育成

≪目標の実現に向けた段階≫

1st Stage【4～5月】 学習・生活のルールづくり

学校の教育目標達成に向けて、子どもたちの声を聴きながら学校ルールの範囲内で学年・クラスのルールを明確化していく。

2nd Stage【6～7月】 学習・生活の習慣化

ルールの遵守状況について、子どもたちと一緒に振り返るとともに、「読み解く力の育成」及び「板橋区授業スタンダード」を徹底した授業を習慣化する。

3rd Stage【9～12月】 学習・生活の一層の充実

「読み解く力の育成」及び「板橋区授業スタンダード」を基盤に、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図り、学習・生活の一層の充実につなげる。

4th Stage【1～3月】 学習・生活の振り返り

子どもたち自身が、自己の成長を実感するとともに、次への工夫改善につなげようとする事ができる取組を実施する。

3 めざす学校像

「思案中（キャッチコピー）」自己実現 互いに成長
子どもたちが「学校に行きたい、学校で学ぶのが楽しい、今日も成長した！」と実感できる学校
保護者が「わが子を若木小学校に通わせて良かった！」と思える学校
地域の方が「若木小学校は、私たちの誇れる学校！」と胸を張れる学校
教職員が「若木小学校で勤務してよかった。自身の指導力が高まった！」と実感できる学校

4 めざす教員像

◎学び変え続ける教員

- ・自ら学びに出る（年間3回以上）

「板橋アカデミー」「指導教諭・教科等指導専門官の授業」「研究校・先進校の視察」等

○学び合う教員

- ・チャレンジする授業の発信
- ・校内 OJT 体制の整備
- 研修・出張で学んだことの伝達及び共有

○危機管理意識の高い教員

- ・「命を守る」ための判断、言葉かけ、計画的な指導
- ・日頃からの報告・連絡・相談・記録（5W・1H）の徹底
- ・複数対応
- ・「いじめ対応100」小さな芽の段階から迅速に対応
- ・不登校対策・対応

5 特色ある学校づくりの具体策

- 「板橋区 授業スタンダード」「読み解く力の育成」「一人一台端末の活用」の徹底・充実を図る「校内 OJT 体制の構築」
- 校内研究及び指導教諭の実践共有による「学級活動の充実」
- 生活のルールの見直しを図る、児童会が中心となった「ルールメイキング」
- 異年齢集団の中でそれぞれが役割を果たし、人間関係形成能力を育成する「なかよし班活動」
- 地域とのつながりを強め、子どもたちの「愛校心」「郷土愛」を育む「さくら草栽培」「商店街での学習」「けん玉チャレンジ」
- 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」と校務改善の充実を図る「一人一台端末の活用推進」
- 学校教育活動の充実のための「外部団体・保護者・地域の人材活用」
- 授業及び学習環境の「ユニバーサルデザイン化」
 - ・分かりやすい授業
 - ・構造的な板書
 - ・精選された文章
 - ・教室前方の最小限の情報
- よりよい教育活動のために教職員の心身の充実を図る「ウェルビーイング休暇」取得

III 経営のスタンス

- 1 「あなたが大切」 一人一人の子ども・教職員を大切にする 互いを大切にできない現状は防止徹底
- 2 「授業で勝負」 子どもたちの自己実現を図ることができる教育の充実のために常に授業革新の推進
そのための働き方改革
- 3 「なぜ・なぜ3回 プラスワン」 前例踏襲を打破し、目的や本質に迫り、1μでも前進を

IV 求める姿勢

1 教職員個々の基盤

・ミッション（使命） ・パッション（情熱） ・イノベーション（創造） ・リスペクション（尊敬）

・4つのリミッターの打破

「前例踏襲」いいじゃないか今のままで 「思考停止」なにがおかしい今のままで

「固定観念」決まっていることだ今のままで 「自己制止」これ以上自分には無理だ今のままで

2 学校組織としての土台固め

・共汗（みんなでする） ・継続（続けてする） ・徹底（とことんする）

V 求められるモラル

社会人として、多様な立場の方々から好感をもたれるような対応を心がける。

1 子どもの人権を尊重する

・授業では必ず「さん」付け ・子どもの取り組みや作品へのフィードバック

2 教職員のサービスの徹底

・サービスには厳しく、互いに声を掛け合える風通しのよい職場風土の醸成

3 さわやかな言動

・出退勤時、授業時など、いつでも、どこでも、誰にでも不快感を与えない服装

・挨拶・返事・言葉遣い